

青中NEWS

「組合青年部県大会」を開催 ～コロナ禍の今こそ「未来への種まきを」～



田崎会長

広島県中小企業団体青年中央会は、10月15日(木)、おりづるタワーにて「組合青年部県大会」を開催。コロナ禍で活動が消極

的になる中小企業が多い中、本業の自動車販売業の他に、新たなグループ企業の立ち上げを積極的に行い、経営の多角化に挑戦する株式会社広島マツダ代表取締役会長兼CEOの松田哲也氏の経営姿勢を参考にしたいとの声に応え、同氏による講演会を「コロナ禍でピンチをチャンスに変える発想」と題して開催した。

講演の中で松田氏は、危機に対する心構えについて語られた。新車の販売市場は、大幅な人口減少やカーシェアの普及などから長



松田哲也氏

期的に縮小することは明らかであり、自社の進む方向として、「広島でシェアNO.1を狙う」「海外に打って出る」「全く異なる業種に取り組む」という3つ全てを実施する道を選択したと説明された。

シェアNO.1目標では、自社のブランド作りのため、社員自らによるPR活動を展開するほか、多角化戦略として「おりづるタワー」のオープン、今年に入ってから新たにモデルの事務所や外国人の就職斡旋企業の立ち上げ、無人ホテルの開設などを手がけられている。こうした展開に当たっては、広島マツダとして副業を認め、社員をグループの新会社の役員に抜擢するが、仮に新会社がなくなっても元の会社に籍を残してリスクを引き下げながら、企業家として仕



講演会会場風景

事の実践を通して学ぶ体制を構築した。「経営人材として新しいことに挑戦し、経営者として悩みや苦労も感じて、経験を積んでもらいたい。」と語られた。

また松田氏は、「平常時に戻るまで待つのではなく、未来にスタートダッシュが図れるよう今こそ『未来への種まき』が必要ではないだろうか。」と新規事業挑戦への大切さについて熱く語られ、コロナ禍で戸惑う参加者の背中を押していただく講演となった。

講演後には、おりづるタワースタッフの方々に説明をいただきながら、屋上展望台「ひろしまの丘」や「おりづるの壁」の他、松田氏の目指す「ライフisワーク」を実践する次世代型ワーキングオフィスを見学させて頂き、全日程を終了した。

参加した青年中央会関係者からは、今回講演をいただいた松田氏のように常に挑戦していく姿勢で今後取り組んでいきたいとの声が聞かれた。



次世代型ワーキングオフィスを見学